

初の水産物先物、冷凍エビ上場へ 関西商取が5月に予定

日本経済新聞社記者 北島 穰

標準品はブラックタイガー

関西商品取引所（関西商取；大阪市、岩村信理理事長）が水産物としては日本の先物市場初の冷凍エビ現物先物を2002年5月にも試験上場（5年間）することになりました。年間輸入額が3,000億円を超える大型国際商品（一次産品）だけにその成否が注目されます。冷凍エビを実際に扱う輸入業者や取り扱い業者が参加しやすいように、受け渡し場所など、同取引所は市場設計にも工夫をこらしています。

冷凍エビの上場に関しては、三菱総合研究所が窓口になって2000年に設置した「冷凍エビ上場研究会」（委員長＝本田浩次・地方競馬全国協会副会長）を受けて、関西商取が2001年に設けた「冷凍エビ上場検討委員会」（同＝高橋弘・元近畿大学教授）が具体案を作りました。先物取引での標準品は輸入額の約3分の1を占め、約1,000億円規模となる「ブラックタイガー」と呼ばれる品種で、インド産のものです。インドネシア産とベトナム産が供用品となっています。

3つの特例が売り物

現物先物取引の基本となる取引要綱の詳細は表のとおりですが、関西商取が冷凍エビを扱う業者への配慮として設定している3つの

特例がこれまでの上場商品とはひと味違うものとなっています。以下、順次説明しましょう。

①申告の受け渡しを行う場合

基本の受け渡し方法は倉荷証券ですが当事者の合意により名義変更が可能です。冷凍エ

冷凍エビ取引要綱(案) (関西商品取引所)

標 準 品	同一パッカー、同一ブランドの生鮮、殻付き、無頭の冷凍ブロックされた16/20サイズのインド産ブラックタイガーエビで本所の基準（一般流通品以上）を満たすもの
供 用 品	インド産(21/25、26/30)、インドネシア産(16/20、21/25、26/30)、ベトナム産(16/20、21/25、26/30)
受 渡 単 位	10枚(540kg)
呼 値 及 び 呼 値 の 単 位	1.8kg入り1ケース、1円刻み
限 月 (受 渡 月)	連続6限月制
取 引 時 間	前場 第2節、第3節 後場 第2節、第3節(1日4節)
供 用 期 間	入港後2年
受 渡 方 法	倉荷証券
受 渡 場 所	阪神地区の指定冷蔵倉庫
取 引 単 位	54kg(30倍)
値 幅 制 限	100円(程度)
委 託 本 証 拠 金	6,000円前後
委 託 手 数 料	600円程度(往復)
納 会 日	当該限月の10日(10日が休業日の時は順次繰り上げる)
新 報 発 会 日	納会日の翌日
受 渡 日	納会日の5営業日後

ビの実際の取引では名義変更が一般的に行われていることに対処したものです。受け渡しも当事者の合意があれば、阪神地区（大阪府と兵庫県）の指定冷蔵倉庫以外でもでき、東南アジアの取り扱い業者の便宜を考えて海外の指定倉庫でも可能にします。

②中央卸売市場を受け渡しに使う場合

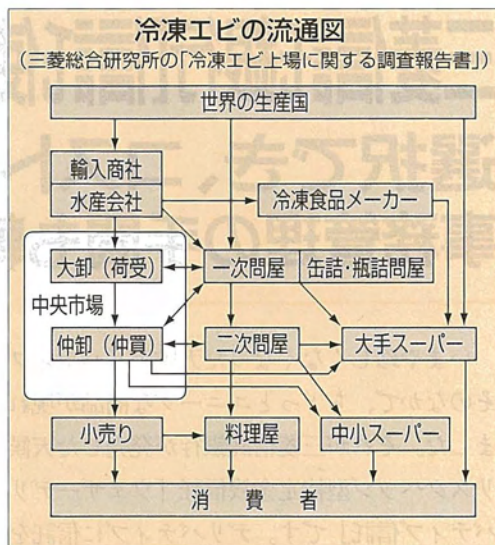
基本取引要綱の受け渡し単位は10枚（540キログラム）ですが、当事者の合意があれば1枚単位（54キログラム）でも可能です。中小取り扱い業者の利便性を考慮したものです。受け渡し場所は当面、阪神地区の中央卸売市場となりますが、利用者が増えれば築地など首都圏の中央卸売市場まで拡大する考えです。輸入された後の国内での冷凍エビの経路を大別しますと、輸入業者から場外一次問屋へが70%、中央卸売市場の卸売業者へが20%、冷凍食品メーカーへが10%で、卸売市場経由がかなりの割合を占めていることに対処したものです。

③予約相対取引を行う場合

これは綿糸の市場で「ベースス」、生糸の取引で「コール」と呼ばれた取引形態を導入するものです。取引所の先物価格を利用して当事業者が相対で取引するものです。売り方・渡し方は自分の好きな時に売り建玉を持つ一方、買い方・受け方は同じく好きな時に買い建玉を持つもので、売り方、買い方が相対で決済する形式です。これは先物市場での受け渡しだと何が渡るか分からないため、売買する冷凍エビの品種を限定した上で取引する利点があります。

ユーザーを取り込む

このように、関西商取は冷凍エビの現物先物上場に関して、大手の取り扱い業者のみな



らず中小業者の取り込みにも前向きな姿勢を見せています。関西商取など地方の取引所は東京工業品、及び東京穀物商品の2大取引所に押しつぶされる形で淘汰される可能性が大きくなっています。

関西商取の平子玄一常務理事も「ユーザーのニーズを取り込まないと生き残れない」と危機感を強めています。同氏はまた「試験上場期間を5年にしたのは、試行錯誤を繰り返すなかで使いやすい市場設計（スペック）に変更できる時間的余裕を持たせるため。あくまで本上場への前倒しを視野に入れた5年」と話しています。

関西商取は2001年12月20日に開いた臨時総会で定款、業務規定を一部変更して水産物市場を創設し、冷凍エビを新規上場することを正式に決めました。取引開始は5月の連休明けを予定しています。また、同取引所が三菱総合研究所に委託した「水産物上場に向けた基礎調査」も既に報告書の形で出来上がり、マグロ、サケ、イカ、タコやスケトウダラが候補となっています。それだけに、第一陣として冷凍エビは重要な役割を担っているといえるでしょう。